

株式会社ジェイコム東京 南エリア局 放送番組審議会 議事録

2021年度株式会社ジェイコム東京南エリア局 放送番組審議会は
2022年3月29日(金)永福和泉地域区民センター「第4集会室」にて開催された。

【放送番組審議会委員】

〈ご出席〉

板倉 徳枝様
川副 隼平様
金田一 秀穂様
佐久間 ヒロコ様
藤山 健次郎様
山ノ内 凜太郎様

【事業者：株式会社ジェイコム東京】

南エリア局 局長 前田 浩慶
南エリア局 管理部長 小野寺 陽子
南エリア局 地域プロデューサー 芦澤 公一
南エリア局 地域プロデューサー 荒明 進太郎
南エリア局 地域プロデューサー 森 明子

【事業者：JCOM 株式会社 J:COM プロダクション本部】

映像制作第一部 東京ニュース報道グループ
リージョナルマネージャー 関原 真人
中野事務所拠点長 東 照審

事業者側から事業報告及びJ:COM テレビ(10ch)と
J:COM チャンネル東京(11ch)について報告。

【質疑応答・意見交換】進行：議長 佐久間 ヒロコ様

■「杉並人図鑑」終了について

委員

終了は残念。なぜ終了してしまったのか教えてほしい。
「居酒屋秀ちゃん」のスタートはすばらしい。
地域で活動している人の紹介や参加できる番組をより制作してほしい。

委員

同じく終了は残念。
「居酒屋秀ちゃん」はよいが、著名人を呼ばなくともカメラマンが地域の方々にインタビューするような形の簡単な番組でもいいので、地域の人々の参加型の番組を増やしてほしい。

事業者

「杉並人図鑑」は5年間で200名近いゲストにご出演いただいた。
地域の方々に多くご出演いただき、新たなステージに移行すべき段階に入ったため終了となった。
もちろん「居酒屋秀ちゃん」をはじめ地域の方々にご出演いただくスタンスの番組は継続していく。

■「J:COM 旗争奪 学童軟式野球大会 杉並区大会」について

委員

「J:COM 旗争奪 学童軟式野球大会 杉並区大会」という冠大会が開催できたことは素晴らしい。

青少年や子どもをとりあげる番組をもっと制作してほしい。

また冠大会も開催してほしい。

子ども達が出演する番組は見ていて楽しいと感じるし、家族など視聴される方も増えるのではないかと。ぜひ検討してほしい。

委員

自分は杉並のことはよく知っていると思っているが、J:COM 経由で知る情報もあり楽しく拝見している。野球の冠大会ができたことはとてもうれしい。

また以前、女子は大会に出場できなかったが現在杉並区大会には女子も出場している。

SDGs の観点からもとりあげて欲しい。

常々青少年や子ども達が地元杉並を愛してくれるようになってほしいと思っているので、冠大会ができたことはよい影響があると思う。今後は学童に限らず、高校訪問や部活動紹介などもあわせて検討してほしい。

事業者

野球に限らず様々な地域スポーツに注目していきたい。中学・高校の部活動については、文科系の部活も同様に注視している。ニュースを中心に取材を通して区民の皆さんの活躍を伝えていきたい。

また、弊社には「ど・ろーかる」アプリがあるように「ど・ろーかる」な情報を取り入れていくべきだと感じており、制作担当とも常に相談していきたい。そしてなるべくフットワーク軽く取材し、番組を通して情報を提供していきたいと考えている。

■外国人向けの放送について

委員

杉並区内には外国人の方も多く居住されているが、放送を見ていただけているのか。

見ていただけるようにちょっとした地域の情報を多言語で放送してほしい。

多言語放送になると外国人も含めた地元感が出ると思う。

事業者

言語対応については、せめて英語対応などは検討したい。

■イベントの取材や番組での紹介の仕方について

委員

イベント当日の取材だけだと視聴者はニュースを見ても「こういうイベントがあったのか。」という感想だけで終わってしまう。取材対象のイベントがなぜ開催されたのかなど背景の部分も取材して提供してほしい。

またイベント開催前にニュースで紹介して告知につなげる方法もある。

視聴した「農福連携農園すぎのご農園」のニュースについては、いつオープンしているのか、ホームページの紹介や、また一歩進んでホームページにリンクする QR コード画面を番組内で提示するなど、番組を視聴した上で、より深く知られる情報も一緒に紹介してほしい。

事業者

制作側でも同じことを感じている。イベントの事前告知としてトークコーナーに1週間前に出演していただくなどすでに実施しているが、QR コードでのホームページ紹介などの掘り下げは出来ていないので今後検討して進めていきたい。

■制作番組のクオリティの向上について

委員

インターネットとテレビが融合している現代において、杉並区の広報番組についても区民に視聴していただけるよう他のコンテンツとの競争に勝たないといけない。

広報番組のクオリティを競合の映像表現も参考にしてはどうか。

事業者

放送法に則るテレビ放送と、インターネットの区別は必要である。

誰でも配信できる時代に視聴者が必要としている情報をいち早く出せるかが重要になっている。

コミュニティチャンネルの立場としては地域情報に特化して情報をいかに早く出せるかが焦点。

現状は自社のプラットフォームでのアプリ配信のみのため、更に視聴者にご覧いただくための方法についても考えていく。

■ライブカメラ映像の配信について

委員

駅前の混雑具合などを見たいときに確認できるよう、ライブカメラの映像を常に表示できないか。

事業者

ライブカメラは一部の河川や駅前に設置している。また放送については早朝に一部放送している時間帯もあるが、瞬時にライブカメラに画像をきりかえることは体制面で現状出来ていない。これから検討していく。

■スマホなどを利用した撮影について

委員

例えば新型コロナワクチン接種についてなど、NHK や民放で放送された全国版のニュースの杉並での状況や現状について放送できればおもしろいと思う。

スマホなどを使用した簡易的な撮影方法も取り入れてはどうか。

事業者

撮影用カメラだけではなく、スマホやタブレットで撮影した映像も番組に取り入れることが出来るよう動きは始めている。

■コミュニティチャンネルの目指すところについて

委員

コミュニティチャンネルにおける成功とはなにか。

視聴率なのか？コミュニティチャンネルを視聴するためにご加入いただくことなのか？

事業者

コミュニティチャンネルは集合住宅の場合、建物に導入されていれば、J:COM に加入しなくても無料で視聴できるが、視聴されていた方が転居する際にコミュニティチャンネルが視聴できる物件を選んでいただくことも1つの成功。

■番組の企画の確定について

委員

番組の企画を依頼したい際のタイムスケジュール感が知りたい。

例えば依頼しても1年前までの確定であれば、1年後以降の放送となるのか？

どのくらい前に決定しているのか詳細が知りたい。

事業者

基本的には2か月前に方針を確定する。

委員

新番組はどのくらい前に決定しているのか。

事業者

年度単位で確定していることが多い。

■大学など杉並区内の学校との連携について

委員

コロナ禍で大学などの授業はオンラインが増えた。オンライン授業の様子は各学校にアーカイブとして保存されている。J:COM と協業して地域の勉強したい方々に向けて大学のオンライン授業のアーカイブを配信できないか。

アーカイブとして存在しているので活用しないともったいないと思う。

また大学などは地域への還元を模索しているので、オンライン授業の配信を通して還元出来るのではないか。

事業者

大学との協業は動きは始めているが、なかなか踏み込めていない。今後強化していきたい。

■番組の反響について

委員

反響を特に感じているのはどの番組か。

事業者

反響が大きいのは「ジモト応援！つながる News」

また「J:COM 旗争奪 学童軟式野球大会 杉並区大会」も反響があった。

委員

学童軟式野球大会だから反響があったのか。他のスポーツではどうなのか検証してほしい。

また「ど・ろーかる」アプリのダウンロード数はどのくらいか。アーカイブはあるのか。

事業者

「ど・ろーかる」アプリのダウンロード数は着実に伸びている。視聴期限はあるがライブ配信、アーカイブ配信も実施。

「J:COM 旗争奪 学童軟式野球大会 杉並区大会」については、承諾を得た上で来年度「ど・ろーかる」アプリでの配信を検討している。

以上